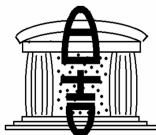


学校だより



生徒の成長を支援するために

校長 続橋 正寿

学校は、少しでも生徒たちがやりがいと楽しさを体験できる行事や活動を確保しようと新型コロナウイルス感染症拡大防止に最善を尽くしています。保護者の皆様の理解と協力のお陰で、3年修学旅行、1年箱根遠足、生徒総会、体育祭を実施することができました。どの行事においても生徒は、様々な制約の必要性を理解し、きちんと自制する姿がありました。大人でもできない人がいるのに・・・台中生はとても立派です。そして何よりすごいのは、どのような活動でも笑顔で楽しく取り組んでいたことです。きっと絆も深まったことでしょう。これからも学校行事や部活動等を通して「生きる力」が一人ひとりに身に付くことを願っています。

さて、今回は、学校運営についてお話しします。本校でも横浜市教育委員会が策定した「横浜市立学校教職員の働き方改革プラン」に基づき、業務改善に取り組んでいます。学校の教育活動は、それぞれに目的があり、大切なものばかりですが、目的達成の手段の有効性を考えると改善すべき点があります。本校の重点取組目標の一つに「生徒と向き合う時間を確保し、生徒一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな指導、支援を行うために、保護者との連携強化をさらに進めていく」というものがあります。この目標を達成するための一つの手段として、昨年度「連絡票の簡素化」「三者面談の機会拡充」を行いました。

連絡票における所見は、文書として残ることもあり、良いところを褒めることが中心で、課題をはっきりと表現することがほぼなくなりました。そのために学校でのお子さんの様子が保護者の方に伝わりづらくなり、成長支援が効果的に行えない懸念が高まっています。また、連絡票作成にかかる労力とその効果を考えると非常に効率が悪いです。そこで、本校では、昨年度から連絡票の項目は、観点別評価、評定の記録とし、所見を記載しないことにしました。その代わりに三者面談を年3回実施し、学校でのお子さんの様子を丁寧に説明することにしました。直接お会いすることで、互いの思いがより伝わりやすくなり、効果的な成長支援につながるものと信じています。面談の際には、保護者の方の心情やお話を十分に伺うとともに、教員は、生徒一人ひとりの良いところ、課題、支援・指導経過（現況）、今後の方針などを話し、学校と家庭が同じ方向を見て、大切なお子さんを教え育む協働体制を構築しようと考えています。連絡票配付の直前の面談では、学級担任は、各教科担任と情報共有し面談に臨みますが、より詳細な内容をお聞きになりたい方には、別日にはなりますが教科担任との面談を調整します。また、総合、道徳、特活の分野などは、教員と生徒が情報共有のために使用している振り返りシートなどを活用しながら説明いたします。

また、面談を通して気づいたことを基にさらにきめ細やかな指導計画を作成することにもつなげています。この取組により、本校の教員が生徒及び保護者と向き合う時間が増え、学校と家庭が心をひとつにして、大切なお子さんの成長支援を行うことがますます充実するものと考えております。何とぞ趣旨をご理解の上、ご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

第75回体育祭

天気にも恵まれた6月23日、保護者の方々の応援を力に変えて、台中生は素晴らしい体育祭を作り上げました！



【1年生】1年生 仲間のために全力で取り組んだ Reds !



【2年生】一致団結！！どのクラスもパワー全開！



【3年生】青の嵐を巻き起こせ！

昨年、先輩たちが選手宣誓の中で贈ってくれたことばを胸に、最後の体育祭を迎えました。各クラスが勝利をめざし、作戦を練って、様々な問題にも向き合ってきました。その道程で得たものは、青学年の生徒一人ひとりの今後を支えるものになったことでしょうか。運営にも競技にも、最上級生として全力で打ち込む青学年の生徒たちの姿は輝いていました。たくさんの感動をありがとう！



★5月12日に行われました評価評定説明会に寄せられた質問に対するお答えを一部掲載します。

Q 資料p7「自らの学習を調整」との記載がありますが、定義づけだけでも識者が長く語るような内容のため、具体的な言葉を添えてご説明おねがいします。重要とのことで共通理解を図りたく思います。p8「自らの学習を調整する側面」についても同様です。

A 言葉だけですべてを説明することは難しいことだと思っています。自分自身の学習状況を把握する事（自分ができること、できないことを受け止めることができているかなど）、自分の学習の進め方について試行錯誤しようとする事（例えば、スモールステップを作って苦手な部分を一つずつ克服しようとする事）というような説明がされています。例えば、英語ですと言語活動における生徒の表情、動き、話し方、聞き方、行動の様子やなどを観察したり、その発言の内容を分析したり、振り返りカードや学習カードなどに記述された内容を点検や分析をして判断していきます。一教科のごく一部の説明になりますが、それぞれの教科や学習の内容、単元によって評価するポイントは違います。

Q 資料p9「総合的な学習」について評定はされるのでしょうか。

A 数字による評定はありません。学んだことを保護者面談などの際に担任より直接伝えさせていただきます。

Q 技能科目で苦戦しているのので、どうすれば評価が上がるかを授業の初め以外でもアドバイスしていただく機会があればありがたいです。

A 教科によって変わりますが、技能教科であれば活動の中で気が付いたこと、修正する必要があることなどに関しては、可能な限りその都度、活動時間内に助言等させていただいています。全員に必ず個別にというのは難しいので、直接聞きに来てもらっても大丈夫です。

Q 教科以外で内申点が追加されるもの（部活など）を教えてください。

A ありません。私立高校によっては、部活動や委員会活動、英検、漢検、数検などの検定の級など内申点に加点する学校もあります。高校のホームページで募集要項など確認してください。

Q ケガ期間の評価の付け方はどうなりますか。

A ケガをしている時期に実技の授業ができない状況では技能という観点の評価はつきません。主体的な取組や、学習カードから思考力を見取ったり、できることを判断して取り組んでいるか、その部分を評価していきます。（例えば、仲間の活動をサポートする活動をしているか、人の活動を見て自分自身の活動に活かそうとしているか、などです）

Q 音楽等の説明で“すごい”という3文字での表現ではなく自らが感じたことをわかりやすい言葉を使って説明できているかというのがありました。上記のような点を重視すると、すべてが「国語力」につながるのではないかと心配しております。昨年度のセンター試験（数学）でも、数学力ではなく、国語力を見るような問題となり、問題になっていました。その科目の評価と国語力は別で評価するようにしてほしいです。

A 教科によっては、活動や作品そのものが評価されるものもありますが、振り返りシートや学習カードなどで自分自身のめあてや、それについての振り返りや活動などについて記録する（文章などで書く）機会があると思います。文章で表現する事も評価の一部になります。

Q どの教科においても「主体的に学習に取り組む態度」の評価は粘り強さ、積極性が評価の基準になってきていると思いますが、例えば学校内でもまたは人前ではそうした態度を表現するのが苦手な場合、どのように判断、評価していただけるのか教えていただけると助かります。

A 各教科で方法は違いますが、振り返りシートや学習カードなどで自分自身のめあてや、それについての振り返りや活動などについて記録する（文章などで書く）機会があると思います。文章で表現する事も評価の一部になります。ただ、文章以外で「〇〇しようとする態度」を表現できるようになることも必要な力になりますので、できることから努力してみてください。